

# わがまち自慢 ～町長室から～

しまち  
石川県志賀町  
こいずみ まさる  
小泉 勝 町長



2011年6月、「能登の里山里海」が、国際連合食糧農業機関(FAO)により、日本で初めて「世界農業遺産」に認定されました。伝統的な森林漁法と土地利用、多様な生物資源、里山景観、伝統技術、文化・祭礼など、豊かな地域資源を持つ能登の里山・里海が評価されたものです。

志賀町は、能登半島の西側の外浦に位置し、穏やかな東側の内浦とは趣の異なる日本海の荒波が造り出す絶景・奇景を有しています。奇岩・怪石や白砂青松の海岸線は、能登金剛と称され、「巖門」や「ヤセの断崖」、「義経の舟隠し」、「機具岩」などは、知られているところです。

また、「日本の水浴場55選」にも選ばれた増穂浦海岸は、日本小貝三大名所のひとつとなっていて、サクラ貝やムラサキ貝などのきれいな貝が、多く打ち寄せられます。

このような自然景観に恵まれていることから、ある大手企業の社長さんから、「志賀町から見る夕日は日本一」というお墨付きをいただいたことがあります。

また、当町は、古い歴史を持つ町でもあります。町内にある福浦港は、奈良時代に渤海国の使節団を歓待したといわれ、北前船など日本海航路の拠点として大いに栄えました。今でも、明治時代に建てられたという日本最古の木造灯台があります。陽の光を受けて輝く黒瓦の屋根

の家並みが港を取り囲み、昔ながらの漁港の風情が漂う港町で、昨年公開された映画「リトル・マエストラ」(主演：有村架純)の舞台ともなっています。

古い歴史と素朴な風土を持つ町には、数多くの祭りや伝統行事が残っています。数十基のキリコ(奉灯)が繰り出す「八朔祭礼」や、「おしょうらい」と呼ばれる松明を使った旧盆の行事が代表的なものです。

また、「志賀町といえば太鼓」といわれるくらい太鼓打ちが盛んです。最大のイベントが「県下太鼓打競技大会」で、80年以上の歴史があります。打ち込みと芸、調子を競い、その年の最上位の打ち手には、大関の称号が与えられます。また、10年に1度、大関の中の最上位を競う横綱大会が開催されます。

こうした志賀町の宝ともいえる地域の祭りや伝統行事を、将来にわたり継承していく必要があると考えています。

さらに、何ととっても能登の自慢は、食です。新鮮な海の幸はもちろん、能登牛や能登野菜など、食材は豊富で、来町された方々には、「能登の魚は美味しい」とよく言われます。特に、生きた甘エビは、そのぷりぷりとした食感と、とろける甘味が絶品です。「リトル・マエストラ」の撮影スタ

ッフからも、口々に「本当に食事が美味しかった」と言っていたことが、とても喜ばしく、記憶に残っています。また、特産品のひとつである「ころ柿」は、正月の高級贈答品として人気があり、関西地方を中心に出荷されています。

2013年4月、能登有料道路は、「のと里山海道」として無料化されました。2015年春の北陸新幹線金沢開業を控え、レンタカーでの能登半島周遊をお勧めしたいと思えます。内浦の穏やかさと外浦の荒々しさ、能登の海は、飽きることのない変化に富む姿を見せてくれます。志賀町の幻想的でロマンチックな夕日の中で、能登の味を堪能していただきながら、至福の時を過ごしていただけたらと思います。

本年9月から、2期目として新たなスタートをさせていただきました。これからも、今まで取り組んできた改革を立ち止まることなく進め、子どもや孫の時代になっても、「志賀町に住みたい、住んで良かった」と実感できる町づくりに向けて、「勇往邁進」していく所存であります。(談)

安部屋(あぶや)海岸のロマンチックな夕日



ぷりぷりとした食感ととろりとした甘味を持つ甘エビ



贈答品として最適な「ころ柿」

能登を代表する景勝地・巖門

